

令和5年度 学校経営方針

学 校 名	津市立大里小学校	校長名	長谷川 友彦
児童・生徒数	180名	学級数	10 学級
		教職員数	17 名

1 めざす学校像

学校教育目標：自ら学び 心豊かに たくましく 進んで実践する子どもの育成

令和5年度の めざす子どもの姿
課題解決のために、対話しながら協働できる子ども

2 経営方針

子どもどうしがつながる学校

- ・安心して仲間とつながっている
- ・深く学び合っている
- ・支え合っている

教職員がつながる学校

- ・チームとして機能している
- ・やりがいを感じ合っている

保護者・地域とつながる学校

- ・保護者・地域の願いに応えている
- ・学校の願いを届けている

3 現状と課題

- ・児童の授業への満足度の高さが学力に結びつくように、授業や家庭学習の質を問い直したい。
- ・自己肯定感が高く、人の役に立ちたい挑戦したい気持ちを持つ児童が、堂々と自分の意見を述べ、積極的に行動できるように、教職員が指示待ちにしないか問い直したい。
- ・保護者や地域との連携を深め、それぞれの役割を明確にして児童の成長に寄与したい。
- ・少ない教職員であるが故に、孤立しないために、改善を促進するためにチームで対応したい。
- ・働き方改革を進め、総勤務時間の縮減を図りたい。

4 重点目標

- ・特別支援教育の質を高め、ニーズのある子に適切な支援をする。
- ・学力向上を図るため、子どもどうしの対話のある授業風景を日常にする。
- ・児童が考え行動する場を充実させるため、学級活動を計画的に行う。
- ・保護者や地域と学校が役割を明確にして協力する。学校の情報を常に提供する。
- ・教職員がチームとしてのつながりをもって業務をする。そして、総勤務時間縮減を図る。

5 具体的な行動計画

- ・ケース会議（年4回）評価（年2回）を通して、全教職員が特別支援教育の研修を深める。
- ・全員が（年2回）研究授業をする。タブレットの効果的な活用についても研修を深める。
- ・学級活動と児童会活動とのバランスをとり、ねらいと見通しをもって実施する。
- ・学年だより（月2回以上）の発行、学校HPへの学年・学校情報の掲載（毎月）、学校公開日の設定（毎月）により、情報提供を充実させる。
- ・家庭学習を充実させる。3年生以上は自主学習および週末の学習課題を充実させる。
- ・校務分掌において、定期的に委員会を持ち、チームリーダー等に相談しながら業務を進める。
- ・個人で進める業務と他の教職員とのかかわりで進める業務を区別し、働き方改革を図る。
- ・地域の学校として、教職員も分担して（年1回）地域行事に参加する。

6 その他

学び合う子に

- ・卒業までに学習規律を身につけられるようにする。
- ・家庭学習の時間を把握しながら、家庭での読書、自主学習を推進する。
- ・子どもどうしが対話する学習場面、課題解決のために協働する学習場面を日常にする。
- ・授業のめあてに対する振り返りを行い、学習内容の定着を図ると共に、自律的な学習ができるようにする。
教員は授業の評価を得て、指導を見直す。

豊かな心をもつ子に

- ・人権教育を通して、様々な人権課題を身近な問題と重ね合わせながら自分も他人も大切に生きる生き方を学び、いじめや差別のない社会の実現に向けて行動する力を育てる。
- ・道徳教育では、「考え議論する」授業を通して、価値観を広げ、自己を見つめる力を育てる。
- ・図書館司書・ボランティアの力を借り、本の読み聞かせや図書館まつりなどの活動を通して、本に親しませる。
- ・特別支援教育を通して、共生社会の実現に向けて、ちがいを豊かさにして共に学び共に育つ子どもを育てる。

たくましく、進んで実践する子に

- ・学校行事・学級活動を通して、目標を立て、仲間と協力しながら取り組み、振り返る力を育てる。
※合言葉は「子どもに任せる、ほめる」 ※学級活動は、ねらいをもって計画的に行い、充実させる
- ・縦割り班活動を通して、お互いのことを思いやりながら、力を合わせ、たくましく生きる力を育てる。
- ・外国語活動を通して、表現することを、コミュニケーションを楽しむ姿勢を培う。

働き方改革

- ・教職員ネットワーク・タブレット端末を活用して会議の効率化をはかり、総勤務時間の縮減につなげる。
- ・学校行事や業務の工夫によって、総勤務時間の縮減につなげる。
- ・長期休業中に連続して休暇が取得できるように配慮する。
また、定時退校日を各自必ず月2日は設定するなど、計画的に業務を行い、総勤務時間の縮減につなげる。
- ・一人当たり月平均時間外労働 30 時間以内、年間休暇取得 3 日増をめざす。

地域・家庭との連携

- ・学校公開日を設け、保護者・地域に授業や行事を公開することで、教育活動に対する理解を得る。
- ・学校・学年(学級)だより、学校ホームページで学校の様子を発信し、機会を捉えて保護者・地域の声を聞く。
- ・茶道教室・伊勢型紙教室や命の授業、防災教育等に対して、地域の教育力を活用する。
- ・敬老会・地区運動会・地区防災訓練などの地域行事を通して、子どもを中心に地域と教職員の交流を図る。
- ・三重大学との連携事業である教育ファームの取組を継続し、農業体験を通して、教科の学習や食教育、キャリア教育に結びつける。

継続した学校改革

- ・学校運営協議会で、三者（地域・保護者・学校）の願いを共有して、役割を分担しながら一体的に進める。また、学校運営協議会で学校自己評価に対する外部評価を受け、地域・保護者に協力を求めることや学校としての改善点を明らかにし、保護者に公表する。
- ・児童・保護者アンケートの結果や教職員アセスメント、学習規律・授業力チェックなどの資料をもとに、学校の自己評価をまとめ、次年度に向けて取り組んでいく。
- ・毎月の職員会議で、行事ごとに反省点を明らかにし、具体的な改善策を残す。

